

KG JOURNAL

関西学院通信 [関学ジャーナル]

OCTOBER
2020 AUTUMN
No.269



関西学院大学

卒業までに 身に付けたい10のこと Kwanseiコンピテンシー



学長のポケット

学長・村田 治



コロナ危機とKwanseiコンピテンシー

私 たちは、現在、新型コロナウイルス感染症拡大(コロナ危機)の真ただ中にいます。4月初旬から1カ月半にわたり自粛生活が続きました。緊急事態宣言が解除された後も、感染の拡大防止か、経済活動の再開か、という難しい選択に迫られています。このような究極の選択に対して、大学での学びはどのように役立つのでしょうか。

本学は、全ての学生が身に付けてほしい10項目からなる「Kwanseiコンピテンシー」を定めました。その中に、「対立する価値を調整する力」「困難を乗り越える粘り強さ」というコンピテンシーがあります。この二つは、コロナ危機の現在において最も必要とされている資質ではないでしょうか。

「Kwanseiコンピテンシー」を身に付けるためには、人生の目標をしっかりと定め、それに向かって着実な努力を積み重ねることが必要であると考えます。まず、学生時代に何かに打ち込み、それを究めていく努力をしてください。さらに、コロナ危機の今だからこそ、もう一度、「人は何のために生まれ生きていくのか」という根源的な問いを、自分自身に投げかけてみてください。

- 1 学長のポケット
- 2 特集 世界市民を育む、学びがある。
卒業までに身に付けたい10のこと
Kwanseiコンピテンシー
- 9 次代を担うあなたへ。
オリックス株式会社 シニア・チェアマン
宮内 義彦さん
- 13 ひとりひと
松田 将成さん(文学部3年生)
門澤 里香さん(総合政策学部4年生)
- 15 Research & Research
社会学部 石田 淳 教授
- 17 Moment
- 19 TALK DEEP
～ニューノーマルを生きる～
- 25 KG CLUB
文化総部 混声合唱団エゴラド
- 27 関西学院で学ぶ皆さんへ
- 29 学院通信
関学カプセル
KGグルメ
- 33 数字でみる関学
大学公式YouTubeの視聴回数ランキング
- 34 聖書に聞く
院長 舟木 譲

卒業までに 身に付けたい10のこと Kwanseiコンピテンシー



関西学院大学では

「“Mastery for Service”を体現する世界市民」の育成に向けて、
全ての学生が卒業時に身に付けるべき知識・能力・資質を「Kwanseiコンピテンシー」と定め、
大学教育に通底するものと位置付けています。新型コロナウイルス感染症の感染拡大や技術の革新などで
大きく変化を続ける時代だからこそ、「Kwanseiコンピテンシー」を身に付け、
それぞれの「真に豊かな人生」を実現してほしいと考えています。
その狙いや特徴について、卒業生や在学生の声を通して紹介します。

大学での授業や課外活動、恵まれた環境の中で身に付けたい
 「Kwansei On-Jitenシー」。
 10の知識・能力・資質を関学生たちはどのように育んだのでしょうか。
 実際の取り組みや経験、学びを紹介します。

10の力を磨いて 目指そう世界市民!



“Mastery for Service”
 を体現する世界市民



4 主体的に行動する力



文学部4年生 石山 航太さん
 学生団体の代表、CCC (Cross-Cultural College)、
 交換留学への挑戦など、多様なチャレンジができる関学
 の環境を活用することで、視点が変わり、自ら行動する

力が伸びたと感じます。
 特にスウェーデンへの
 交換留学では、自ら現
 地のコミュニティーに
 積極的に飛び込むこと
 で、さらに充実した経験
 と深い学びを得ました。



留学先でも日本文化を紹介するイベントを積極的に行った

※関西学院大学とカナダの4大学が協働で運営するバーチャルカレッジ。カナダの学生と寝食を共にしながら、多国籍な場面で活躍できる実践的な能力を養う。



1 幅広い知識・深い専門性



法学部4年生 中山 文花さん
 学部では専門である政治のシステムや在り方、
 日本と海外の違いなどについて学びを深めました。
 一方で、国際学部と人間福祉学部での他学

部履修、国連・外交
 プログラムでの授
 業や海外フィールド
 ワークでは、国際協
 力に関する知識を
 身に付けるなど、幅
 広い学びを得られ
 ていると感じています。



ニューヨークのユニセフ本部でレクチャーを受け、学びを深めた



2 多様性への理解



神学部4年生 森 小姫さん
 神学部には、LGBTや人権などについて、1年生
 の頃から他の学生と意見を交わせる環境があり
 ました。自分と全く異なる意見が飛び交い、時に

はカミングアウトを
 受ける環境の中で、
 他者と自分が違う
 のは当たり前である
 こと、そして、身近な
 ところにも苦しんで
 いる人がいることを
 深く理解しました。



積極的に意見を交わす少人数の授業で自分とは異なる意見や価値観を学んだ



3 論理的な思考力



国際学部4年生 辰巳 菜々子さん
 ハンズオン・ラーニングセンターが提供するPBL特別
 演習では、公認会計士の方と共に3日間、財務諸表
 分析などを通して企業の経営課題を解決する新規

事業案を考えました。
 数字やデータなどの
 根拠を基に、自分の
 考えを整理して伝える
 ために必要な論理的
 な思考力を鍛えること
 ができました。



利益や損益について予測・計算し、根拠を持って新規事業を提案した

※PBLとは、Project-based Learning (課題解決型学習)の意味。辰巳さんが受講したのは「PBL特別演習006 (公認会計士と携む企業のビジネス課題)」。



困難を乗り越える
粘り強さ

8 困難を乗り越える粘り強さ



理工学部4年生 和田 雄介さん
「キャリアゼミ」で、他学部の学生とチームを組んで短期間でビジネスアイデアを考えてプレゼンする経験を得ました。メンバーの予定がほとんど合わず、投げ出

すことも考えましたが、粘り強く納得いくまでやった分、最終的に周囲からも評価してもらいました。粘り強くやり切ることの意味を学んだ経験でした。



キャリアゼミではビジネスプランを作るという課題に対してメンバーと納得いくまで話し合った

※社会で活躍する卒業生やビジネスパーソンを講師に、講義やグループワークを通して将来のキャリアについて考えを深め、社会で活躍するために必要な能力や思考法を鍛えるハンズオンラーニング科目。



生涯にわたって
学び続ける力

5 生涯にわたって学び続ける力



教育学部4年生 坂田 凌さん
多様な学びの機会がある関学は、行動した分だけ新たな知識や経験を得られる環境です。多くの挑戦を経て、自分の強みや特徴を知れたこ

と、多くの素晴らしい友人や先輩方と出会ったことで学ぶことの面白さを知りました。今後も幅広い知識を身に付け、行動を起こすことで学び続けます。



世界の多文化共生イベント「わーどにじいるまつり」の開催も挑戦の一つ



よりよい社会に
変革する情熱

9 よりよい社会に変革する情熱



総合政策学部4年生 吉田 早輝さん
ノルウェーの日本人補習校での活動やネパールでの家建設活動を通して、現地の子どもが抱えるアイデンティティーやジェンダーに関する問題をより強く意識するように。卒業後は日本語教師として、彼らが平等にチャンスをつかむことができる社会の実現に貢献したいと思っています。



ノルウェーの日本人補習校で現地の子どもたちの学習支援を経験



豊かな人間関係を
築く力

6 豊かな人間関係を築く力



社会学部4年生 神原 基透さん
所属する学生広報団体「これが関学」で、学院創立130周年記念企画として校歌「空の翼」をみんなで歌うイベントを立案・実施しました。限られた期

間で一つの目標に向けてメンバーや他団体の学生と本音で話し合うことで、互いを理解し、信頼し、卒業後も続いていくような関係を築けたことが成功につながりました。



思いを本音で伝え信頼し合うことで仲間が集まり、300人以上の学生と校歌を歌った



誠実さと
品位

10 誠実さと品位



経済学部4年 樋渡 太洋さん
開発経済学が専門の栗田ゼミで経験したアフリカでの1カ月間のフィールドワークや、中学校での学習支援活動の経験が今の自分を強く支えてくれています。多くの人と共に活動し、支えられている環境で、誠実な心で行動することや、他者に思いやりを持って接することの必要性を自然と感じられるようになりました。



フィールドワークで訪れたアフリカでは多くの人に支えられ活動をやり遂げた



対立する価値を
調整する力

7 対立する価値を調整する力



商学部4年生 中川 成来さん
代表を務める学生団体に例年の3倍近い130人の新入生から入会希望があり、全員を受け入れるかどうかで組織内で意見が大きく分かれました。正解がない

中、全員が納得できるよう徹底的にヒアリングとメンバーのサポートを行いました。希望者全てを受け入れる決断し全員が納得し、それがより充実した活動につながりました。



代表を務めた「KG CLUB」の集合写真。200人以上の仲間とオープンキャンパスを成功させた

Kwanseiコンピテンシーと真に豊かな人生

Kwanseiコンピテンシーの策定に携わった副学長の富田宏治・法学部教授を進行役に、卒業生で社会人5年目の関駿輔さん、人間福祉学部4年生の竹田未来さんが関西学院大学での多彩な学びや挑戦、それらを通じて得たものや成功したこと、さらにこれから歩いていく「真に豊かな人生」について語り合いました。



副学長
富田 宏治 法学部教授

名古屋大学法学部卒業、同大学大学院法学研究科博士後期課程単位取得退学。1989年に関西学院大学法学部に着任。1999年から現職。副学長、学生活動支援機構長を兼務。専門は日本政治思想史。



豊田通商株式会社(株式会社豊通オールライフ出向中)
関 駿輔さん (2016年商学部卒)

複数分野専攻制を活用して法学部企業法務コースも修了。体育会サッカー部初の男子マネージャーとして、大学サッカー史上初の4冠達成に貢献。関学キャリアセンター公認就活支援団体SR(Student Reporters)でも活動した。



人間福祉学部4年生
竹田 未来さん

社会起業学科に所属。社会起業フィールドワークではタイを訪れ、現地の医療機関を調査。CIECの学生交流団体GS Networkの代表も務め、留学生と日本人学生の交流促進のために多彩なイベントを企画・運営している。

大学時代の学びや活動

富田 まず、学生時代の活動についてお話しください。

関 体育会サッカー部に所属し、4年間、学生スタッフとして部の運営や選手のサポートをしました。また、進路選択時に商学部と法学部で迷った末、よりビジネスに近い学びを得られる商学部を選んだ経緯があり、ビジネス法務の知識を得るために複数分野専攻制を活用して法学部企業法務コースも修了しました。就職活動でキャリアアセンターを利用した時、SR(Student Reporters)に総合商社の内定者が所属していなかったため、SRとして商社を目指す学生の支援にも取り組みました。

富田 関さんが4年生の時、サッカー部は大学4冠の偉業を達成しましたね。私は体育会長の経験もあり、体育会のモットー「NOBLE STUBBORNNESS」の精神をぜひともKwanseiコンピテンシーに入れるべきだと主張しました。それが「困難を乗り越える粘り強さ」「誠実さと品位」の2項目です。

竹田さんは現役で活動中ですね。

竹田 ゼミ活動のテーマがスポーツの力を通じた社会貢献で、小学生を対象にプロバスケットボー



2015年夏、総理大臣杯で初優勝

※3…大学4冠
体育会サッカー部は2015年、関西学生選手権、総理大臣杯、関西学生リーグ、全日本学生選手権(インカレ)の四つの大会で優勝。

※2…SR(Student Reporters)
就職活動を終えた4年生から成るキャリアアセンター公認団体。後輩の就職活動のサポートを目的に活動している。

Kwanseiコンピテンシーとは

富田 Kwanseiコンピテンシーを身に付けるにふさわしい活動ばかりですね。

Kwanseiコンピテンシーは、関西学

ルチームの試合で職業体験をするイベントや、バスケットボールと組み合わせながら英語を楽しく学ぶ教室を企画・運営するなど、学外で数多くの実践活動に取り組みました。課外活動では、留学生と関学生の交流を促進する学生交流団体GS Networkの活動に力を入れてきました。いずれも代表のポジションを務め、いい経験ができたと思っています。

※1…複数分野専攻制
所属する学部の科目だけでなく、他学部や学部以外の機関から提供された副専攻プログラムのもと、学部の枠を越えた領域を学ぶことによって、幅広い知見と深い専門性を備えた学生を輩出することを目的として設置された関西学院独自の制度。



富田 自身を振り返って、学生時代にここは成長した、力が付

挑戦を通じ 成長したこと

院が創立150周年を迎える2039年を見据えた超長期ビジョン「Kwansei Grand Challenge 2039」を策定する過程で、大学の教育は何を目標にすべきかを議論する中で生まれました。全ての卒業生に「真に豊かな人生」を送ることが出来る力を付けてもらうことが大学の使命であり、そのためには質の高い就労が重要な条件となります。それを保障するためには学生の質を保障していかなければならないと考えました。

ところが目指す2039年はAI（人工知能）が人間の能力を超えるシンギュラリティの入り口に当たる時代で、何をもちて学生の質を保障できるのかという壁に突き当たったのです。結局は原点回帰。関西学院は人間を育てることを第一に、キリスト教主義の全人教育を掲げて宣教師たちが創設した学校であるという原点に戻ります。幅広い知識はもちろん、品位や誠実さ、さまざまな価値を調整する力などを改めて見直し、整理をして、AIが取って代わることでできない人間としての基本的な能力を目標として設定するに至りました。



いたと言えることはありませんか。

関 どのような苦難・困難でも最後までやり遂げる力だと思えます。極論を言えば、サッカーで日本一になったこと自体には何の意味もなく、そこに至るプロセス、戦ってきた仲間たちとの思い出や血みどろでやってきた瞬間が自分の宝であり、やり切った感となって生きています。また、学生の本業は学業であるため、複数分野専攻制に挑戦し、4年間、部活動と勉強を両立できたことも自分にとつての財産です。



富田 大学としては忸怩たる部分ですが、われわれ教員が伝えられるのは当座の知識でしょうか。複数年分野を専攻して2倍の知識を得られたことよりも、それに取組み、成し遂げたところにより大きな意味があるでしょうね。



関 もちろんベンシクな知識やスキルを身に付け、社会に出た際にスムーズに応用できたのはプラスだと感じています。



富田 竹田さんはいかがですか。



竹田 一つのプロジェクトに対して、周囲の人と協力して最後までやり切った点で成長できたと思います。学年が上がるにつれてゼミリーダーを務める機会が増え、全体が

うまく動くように周囲に目を向けて取り組む姿勢が身に付きました。特にゼミ活動では、自分たちの思いだけでなく協力相手にもメリットがある企画を提案し、そういう企画が社会的にどのような意味があるのかまで論理的に考える力も養われました。

目標達成の 先にあるもの



富田 関さん、部活動やプロジェクトでやり遂げることを保障するための力は何だったのでしょうか。



関 社会人になり、ゴールデンサークル理論を知った時には、まさしくこれだと思いました。サッカー部で言うと、一般的に多くの人や組織は、日本一になるために何をどうするか、Whatから考えます。でも私たちは、なぜ日本一を目指すのか、Whyを考え、大学サッカー界の可能性を広げる、観戦する人を感動させるといった目的を考えました。結果、全員が最後までやり遂げられたと思います。



富田 日本一は目標かもしれないけれど、目的ではなかった。

Kwanseiコンピテンシーが育まれた 正課教育

関さん



複数年分野専攻制

商学部と法学部、異なる学問を専攻することにより、「幅広い知識・深い専門性」「生涯にわたって学び続ける力」を特に伸ばせたと感じています。「ドイツのコーポレートガバナンス」というテーマで、商学（経営学）、法学（労働法）二つの切り口から論文を執筆しました。また、体育会に所属しながら複数年分野専攻制を修了したことで、いかなる環境下でも学び続ける重要性・姿勢を身に付けられたと思います。

竹田さん



海外フィールドワークとゼミ活動

海外フィールドワークで訪問したタイは、栄えている地域がある一方で貧しい暮らしを余儀なくされる地域もあり、現状を知って幅広い視点から解決策を模索する重要性を学びました。ゼミ活動では、イベントが小学生にどのようなプラスの影響を与えられるのか、どんな意義があるのかを考えながら企画運営する経験をしました。学科での学びを通して「幅広い知識・深い専門性」や「多様性への理解」が身に付きました。

Kwanseiコンピテンシーが育まれた

正課外教育



関さん

体育会サッカー一部

部を円滑に運営すべく、常に主体的に、そしてチーム内外のさまざまな関係者の目線に立ちながら行動することが重要だったため、「多様性への理解」「主体的に行動する力」を身に付けられたと思います。また、仲間たちと苦難や困難を乗り越えて、最終的に日本一という目標を達成できたことは、自信にもつながり、「困難を乗り越える粘り強さ」を人一倍伸ばすことができたと感じています。



竹田さん

イベントの開催

GS Networkでの国際交流イベントはもちろん、それ以外でも友人と多くのイベントを開催しました。企画の構想段階や実施中にはうまくいかないこともあり、その際にどうしたら解決できるのかを考えて積極的に動くようになったので、「主体的に行動する力」「困難を乗り越える粘り強さ」が身に付きました。また、仲間と協力して活動する中で「豊かな人間関係を築く力」も養われたと思います。

リーダーに求められる要素

富田 複数人で何かをやり遂げるにはリーダーシップが肝要です。お二人にとってのリーダーシップとはどのようなものですか。

竹田 プロジェクトの実行に際して、積極的に関わる人もいれば、そうではない人もいます。関わっていない人には何か事情があるのかもしれないと考えて、個人的に話をし、その人のペースで携われる役割を分担してもらうことでもうまく進むようになりました。この経験から、一人ひとりを考えてみんなを取り組めるようにすることがリーダーの大事な役目だと思いました。

関 私が考えるリーダーシップとは、組織が進むべき方向性を定め、そこへ導いていくことだと思います。サッカー部では、部員それぞれが持ち場においては自分がリーダーだと認識し、主体的に行動していました。私もマネジャーとしての領域では誰にも負けないという気持ちでした。

富田 Kwanseiコンピテンシーには、リーダーとしての要素が全て盛り込まれ、身に付けることにより各方面でリーダーシップを発揮できる人になるのだらうと思います。ただし、10項目全部を身に付けなくても、

その中でどれが自分の能力、特質なのかを見いだし実行して行くことも大事だと思います。

関さんは、学生時代に身に付けた力が生きている、自分を支えていると思うことはありますか。

関 サッカー部は監督以下全部員が、利他的な考え方に立って大学サッカー界を変えようという強い意志を持って取り組んできました。卒業して豊田通商という大きな組織に属することで、その視座がより高くなり、世の中や社会を変えたいという思いが強くなりました。学生時代、日本一という利己的な目標のためだけに動いていたなら、このような考えには至らなかったと思います。“Mastery for Service”の意味を10年越しに理解できた実感しています。

「真に豊かな人生」を 考える

富田 竹田さんは大学4年間で見つけたものを社会でどう生かしていきたいですか。

竹田 たくさんの挑戦の中には失敗もありましたが、新しいこと、難しいことに取り組んだ結果、視野が広くなり、達成感も感じ、学生生活がより充実したものになりました。社会人になっても何か新しい挑戦を続け、で

目標の向こう側に本当の目的があるのではないか、それを見失わないようにしようということですね。

竹田 私も何か目標を決めた場合、それを達成したことで終わらないよう段階的に目標を設定するようにしています。まずはこの目標があつて、クリアしたら次の目標があるという形で、一つ一つ階段を上っていくように少しずつ成長できたらいいなと思っています。

富田 目の前の目標を成し遂げるのは一つのプロセスで、さら

に進んでいく先に果たすべき本当の目的があると意識しながら取り組むことはとても大事です。同様に、Kwanseiコンピテンシーも、大学生活を通じて身に付けることは一つの目標で、それを質の高い就労につなげるのもまた目標でしかなくて、最後には真に豊かな人生がある。「真に」とは、経済的な豊かさなどでは測り切れない何かものかです。個人的には、臨終の際に「ああ、いい人生だった。いい仕事をしたな」と、最期に初めて分かるものだと感じています。

地域の小学校の児童を対象に、バスケットボールと英語の基礎技能を教えるイベントを開催



きなくとも最後まで困難に立ち向かっていける人間でありたいと考えています。



富田 先ほど、真に豊かな人生は臨終の際にしか分からないと話しました。二人は真に豊かな人生をどう考えますか。



関 真に豊かな人生を実現するためには、利他的な考え方の下、二つの事象を他人や環境のせいせず、自分自身に目を向けて行動することが必要だと考えます。世のため、人のため、それが働くことの本質であり、人としての生きる価値、意味でもあると思います。



富田 “Mastery for Service” という言葉の重みは、社会に出てこそ分かると思うられます。



関 26歳の今と10年後、20年後では“Mastery for Service”に対する考えは違ってくるかもしれませんが、社会人になってから、この言葉の深みを実感することは多々あります。



富田 竹田さんは、これから就職をして真に豊かな人生を目指すしていくことになりそうです。どのような人生が真に豊かだと思いますか。



竹田 同じ環境にいるよりも、違った環境に飛び込んだり、新しい人に出会ったりしていることが、今の私の毎日が充実している一つの重要なポイントです。日々刺激を求めて生活できる状況が、私にとって豊かな人生を送るための鍵だと受け止めています。

一関学生へのメッセージ



富田 お話の全てにKwanseiコンピテンシーが貫かれていると感じました。関さんは身に付けた力を社会で生かしながら新たな挑戦を続けていますし、竹田さんも培った力を発揮して社会で活躍するだろうと確信しました。最後に後輩たちへのメッセージをお願いします。



関 人生の夏休みと言われる大学生活を、自分の時間として周りがどうこうではなく、自分自身が

Kwanseiコンピテンシーが育まれた環境

関さん



商学部・法学部のゼミ

商学部では経営学ゼミ、法学部では労働法ゼミと二つのゼミに所属して活動し、特に商学部ではゼミ長も務めたことで、「豊かな人間関係を築く力」を身に付けられたと思います。双方のゼミで出会えた仲間は財産であり、かけがえのない大学生活を送ることができました。学部が異なる私を受け入れてくれた教授や、チャレンジングな環境を整備してくださった大学側には、非常に感謝しています。

竹田さん



多様な留学機会とグローバルキャンパス

学内でも国際交流ができる場が多く、さまざまな留学プログラムがある環境が魅力的です。2年生の秋学期に4カ月カナダに留学したのですが、学内の恵まれた環境を最大限に利用して準備したことで、爽りのある留学生活が送れ、スキルアップにつながったと感じています。グローバルな環境に身を置くことでさまざまな価値観や考えを持つ人と出会い、「多様性への理解」ができるようになったと思います。

どう生きていきたいか、この4年間をどのように使いたいかと考えた上で有意義に過ごしていただきたいです。



竹田 興味を持ったことには失敗を恐れず挑戦することです。新しいことに取り組み始め、新たに多くの人と関われますし、それによって次の挑戦ができます。さらに、自分の資質を高めることにもチャレンジしてほしいと思います。



富田 結論を言えば、Kwanseiコンピテンシーは常に意識して

おこななければならないものではありませんし、身に付けるために何か特別なことをする必要もないと考えています。今の学生生活を充実したものにすること、勉強や課外活動、ボランティアなどに本気で、逃げることなくチャレンジをしていく中で、きつと身に付くはず

です。関西学院大学にはたくさんのお出合いが用意されていますので、その目の前のチャンスを逃さないこと。見逃し三振をせず、当たらずともいいから積極的にバットを振ることをお願いしておきたいと思っています。



◎2020年度特別連載企画
次代を担うあなたへ。
オリックス株式会社 シニア・チエアマン 宮内 義彦さん

さまざまな分野で活躍する卒業生のメッセージや現在の取り組みなどをインタビュー形式で紹介いたします。本年度は特別連載企画として、オリックス株式会社 シニア・チエアマンの宮内義彦さんのお話を掲載します。今号では「仕事に対する考え方と経営者として大切に思うこと」「激変する現代社会とこれまでを振り返って」をテーマに語っていただきました。

仕事に対する考え方と経営者として大切に思うこと

具体的に考えて行動し、 結果を出すのが経営者の仕事。

入社3年目、再び渡米 サンフランシスコで リース業を学ぶ

1960年8月にワシントン大学経営学部大学院修士課程を卒業して帰国しました。海外で活躍したいという思いがありましたから、勤務先は商社を希望していました。しかし、8月に入社試験をしてくれる会社などありません。唯一、日綿實業

株式会社（現双日株式会社）が「試験をしましょう」ということで、私人のために試験と面接をしてくれ、その日のうちに採用が決まりました。入社4年目の時、リースのノウハウを習得するため会社から命じられて再び渡米し、サンフランシスコのU・S・リーディング社で3カ月間、リース業について学びました。自分が全く知らないことについて学ぶ時間は楽しかったです。当時は、米国で盛ん

になっている事業を日本に移すというのが一番効率的だった時代です。多くの会社がさまざまな事業に取り組んでいました。リース業もそのうちのひとつでした。

当時の日綿は「研修生制度」を初めて取り入れ、優秀な若手社員を研修生として海外に派遣することを始めていました。若い社員は全員試験を受けるよう指示があり、私は一番の成績だったようですが、「君は海外経験があるから」という理由で派遣されませんでした。代わりに海外駐在の予備員のポジションへ異動になりました。リース業の話が来たのはちょうどその頃です。「海外経験がある若手で、暇そうにしている者」ということで指名されたのです。今思うと、人生が大きく変わった瞬間でした。

さすがに「これはえらいこっちゃな。

やらないかん」と思い、その日から社内にあったリース業の資料を集めて勉強を始めました。渡米前、役員からは「君が間違えば、会社が間違うんだ」とも言われました。この後も責任あるポジションをいくつも任せられてきました。プレッシャーを感じるより、その時々々の立場にふさわしい仕事やミッションが与えられるのだから、その仕事をしっかりとやろうという心構えで取り組みました。

結果を出すことが 経営者の仕事 考えるだけでは評論家

その後、日綿をはじめ3商社・5金融機関の子会社として、リース業を行うオリエント・リース株式会社（現オリックス株式会社）が誕生し、帰国した私は主任待遇で出向しました。事業は拡大し上場会社とな

宮内 義彦

1935年生まれ、神戸市出身。関西学院大学商学部卒業、ワシントン大学経営学部大学院でMBA取得後、日綿實業株式会社（現在の双日株式会社）に就職。64年にオリエント・リース株式会社（現オリックス株式会社）に入社。社長室長、取締役などを経て、80年に代表取締役社長・グループCEOに就任。2014年代表執行役会長、グループCEOを退任し、シニア・チエアマンに就任。

8回全日本合唱コンクール



1955年、大学時代に所属していたグリークラブが全日本合唱コンクール大学の部で優勝

そういう意味では課長の仕事も部長の仕事も目指すところは同じなのだと思えます。

経営者として、大きな決断をしなければならぬことが何度もありました。何を基準に判断をするのかというのは、その時々の問題によって異なります。「右か左か」ということは少なく、「右34度か35度か」ということの方が多く。即決できることが経営者らしいと考えられがちですが、そんなことはなく、持ち時間いっぱいを使って熟考して判断すればいいと思います。しかし、間違ってももちろんあります。自分で納得して「やるぞ」と決めたことでも、そこに固執せず、途中経過を見ながら「おかし」と思えば躊躇なく路線変更することが大切です。

周囲を気にして 意見や行動を変えない 自分が正しいと 思うことは発信する

キリスト教主義教育を理念とする関西学院で10年間学びましたので、その教えは今でも頭の中というか心に刻まれています。キリスト教では、絶対的なものに対して自分の価値を見いだそうとしますが、多く

の日本人が持つ価値観は「世間に対して恥ずかしい」「世間に顔向けできない」という人間社会の相対的なものと自分を対比します。世間対比という意味では、空気を読むことや世間に認められたいという考えを持つこともあるかもしれませんが、それだけを価値観として生きていくのは、あまり好きではありません。世間に背を向けると言っているのではなく、世間の目や空気を気にして自分の行動や考えを変えてしまつたのは違うのではないかと言いたいです。世間ほど移ろいやすいものはありません。

私もかつて規制改革に取り組んだ時期がありました。そこでは古い制度を変えて、新しい制度を提唱していきます。現状を変更するわけですから、当然、既得権益から「反発を食らいます。しかし「世の中が変わらないといけない」という思いがあったので、反対多数の中でも主張して規制改革を進めていきました。会議の場でそのような主張をしても味方についてはくれません。けれども、会議が終われば何人かが私のもとに来て、「宮内さん、いいことを言ってくれた。私も同じ意見です」と言うわけです。「なぜそれを

会議の場で言わないんだ」と思うことが何度もありました。反対を押し切って何かをするのは私も好きではありませんが、規制改革は与えられた仕事でしたから、そこで「黙る」という選択肢はありません。与えられた仕事に対して責任を果たすという事です。

日本人は自分の意見をはっきりと言えない人が多い。ここでも世間に対応しているのでしょう。反対意見が多かろうと、自分が少数派だろうと、意見や正しいと思うことはきつちりと述べるべきです。

推薦図書

「失敗の本質 日本軍の組織論的研究」

な
ぜ日本が太平洋戦争で敗れたのか、その要因について細かく書かれています。歴史分析の本のように見えますが、組織や企業の在り方や動き方のヒントになることが多く、薦めたい一冊です。



戸部良一、寺本義也、鎌田伸一、
杉之尾孝生、村井友秀、野中郁次郎
／ダイヤモンド社

激変する現代社会とこれまでを振り返って

好奇心を満たす習慣を身に付け、 コツコツと継続する。

より良い人が より良い社会をつくる 時代の変化を 進歩につなげられるか

世の中はものすごいスピードで変化する時と、そうでない時があります。例えば、敗戦時はそれまで右だったものが左になっていくわけですから、世の中がひっくり返りました。経済発展が続いて日本は極めて順調に豊かになりましたが、その後のバブル崩壊で停滞が長く続きました。今、私たちが生きる社会は、技術がすごいスピードで進化し、社会にもビジネスにも影響を与えています。再び時代が走り出したと感じます。社会や人の心が変わり、周囲や世界が変わる。さらに技術発展がそれを加速させる。そういうさまざまなものが複雑に入り組んでいる、それが今の私たちの生きる社会の姿だと思います。

しかし、私のように80年以上も生きてくると、こうした状況でさえ、「たいたことねえな」と思います。「いつ爆弾が落ちてくるか分からない」「食

べるものがない」といった戦時中の状況や、敗戦後それまで人々が信じていたものが昨日と今日で一気にならなくなってしまうような革命的变化と比べると、今の社会はある程度予測を立てられるので「面白い」と思っています。

こうした時代において忘れてはいけないのが「私たちは人である」ということです。実際に目にしたわけではありませんが、敗戦直後の上野駅には戦争孤児があふれ、周りの人もそれを平気で見過ごすような世相でした。しかし、今は災害が起されば多くの人が被災地に駆け付けるように、人々にボランティア精神が根付いてきて、いいことだなと思います。このような「人としての良さ」を社会の変化に流されて失ってはけません。より良い社会になってほしいと願いますが、そのより良い社会というのは人がつくっていくもので、一人ひとりの成長が社会の成長につながります。今の社会の変化が人をより良くし、それが「より良い社会」の実現につながっていくことが大切です。それが進歩だと思えます。

学び直し、やり直し 好奇心と継続を大切に

人生100年時代と言われるようになってきました。人生50年の時代であれば、学びは20歳までで十分でしたが、複雑になってきている今の社会では、それに見合った知識や技術が必要で、まさに「学びの社会」であると考えます。そうした社会の変化

に対応していくためにも「リカレント教育」が社会の中に定着しなければ、人々の人生はつまらないものになってしまうと思います。

「大学に行くのは18歳から22歳くらいの人だけ」「卒業後は就職しなければならぬ」なんてことは絶対にありません。社会に出てからも学び続けることが大切です。学び直しもやり直しもあるのです。大学で学びが





2001年に関西学院大学で講演

終わるのではなく、大学が学びの始まりであり、「一生勉強」ということでしょう。「勉強」とは何も堅苦しいことではありません。何かを探究していくこと、向上心を持つてより多くを知り、理解していくことが、人生を面白くしてくれます。

向上心と言うと難しく聞こえるかもしれませんが、「好奇心」と言う方がいでしょうか。ものを知れば知るほど、自分が知っていることがいかに少ないかということが分かってきます。この年齢になっても、「知らないことばかりだな」と実感します。だから、知らないことを知るのとはとても

れしい。「働きながら勉強もしないといけない」と難しく考えないでください。仕事をしていけば、分らないことが出てくると思います。それについて学んでいくことが大切で、その学びの幅を広げていけばいいと思います。

「もし22歳なら」 考える二つの選択肢

私が社会に出てからずっと学んでいたかと言えそうですが、遊んでばかりの時もありました。しかし、自由な時間の使い方は大切にしていました。好奇心を満足させるような習慣を身に付けようと、10年、20年、30年とコツコツ学ぶことを継続しました。すると、「やった人」と「やってこなかった人」では結果的に大きな差が生まれます。

もし私が22歳で自分の人生を自由に選択できるのであれば、二つの選択を考えます。一つは、ビジネススクールに行く道です。これは多少の無理をしても行くと思います。1、2年働いた後に行くのがいいかもしれません。人生100年と言われる今の時代では、修士レベルの勉強をしていないと世の中が見えな

は、大きな会社ではなく、自分を必要とってくれる会社や組織で活躍したいと思います。すでに完成した大きな組織の中で自分の力を発揮できずにいるよりも、中小規模でも自分の能力やスキルを生かして活躍できる組織を選びます。

推薦図書

「昭和史」

若い人たちには現代史も勉強してほしいと思つています。学校では重点的に教えないこともあるようですが、非常に大切な部分だと思つています。現代史を学ぶことで「今」起きていることに対する理解が深まります。



半藤 一利
／平凡社

関西学院大学は、本学出身の上場起業家を学院創立150周年(2039年)までに100人輩出することを目指すプロジェクトを2016年秋にスタートしました。

詳細はこちら→



(今回は、2021年1月発行予定の270号に掲載します。)

誰もが輝ける新月祭2020に 初のオンライン開催に向けて奔走

新型コロナウイルス感染症の流行で、初のオンライン開催となる新月祭。「大変な状況下、一人でも多くの人に幸せな時間を届けたい」と、大学祭実行委員会委員長として410人の仲間と共に奔走を続ける。

関西学院高等部でも文化祭で、出演、司会、運営の「三刀流」をこなし胸上げの榮譽に浴した。その達成感が忘れられず大学祭実行委員会に。ライブ運営や渉外担当などと表と裏の仕事をし、見えてきた課題の解決に向け昨年12月、委員長に立候補した。信任投票で否決され、再挑戦での就任という「アウェーからのスタート」だった。

リーダーとして思うような振る舞い方ができず、試行錯誤の日々。仲間の呼び方は名字か愛称か、「ZM」の文末は句点か絵文字か。小さなことまで悩み苦しんだ2カ月を経て、「背中で引く張る強引な手法ではなく、仲間が活躍できるように背中を押せるリーダーになる」と決意しました。

規模を縮小しての開催を模索する中、7月に第2波が襲来。オンライン開催以外に道はなくなる。中止も検討したが、参加を予定している団体へのアンケートを通じて聞こえてきた声を受け、オンラインに切り替えるこ

とを決断した。YouTubeでの配信を基本に準備が進む中、自ら広告塔となつて多様な媒体でPR活動を展開。企業関係者など学外の方にも積極的に会い、有益な情報は内部で共有した。「誰もが主役になれる、輝ける瞬間があるのが大学祭。あの素晴らしい時間と空間は、どのような形になつても魅力です」

そんな魅力をより楽しめるアイデアが「関西の各大学祭巡り」。5月には14大学に声掛けして関西大学祭連合会を設立した。大学祭シーズンの新しい文化として定着を目指す。



文化祭にのめり込むきっかけとなった、高校3年生時の胸上げの様子

新月祭2020の詳細はこちら→



01

Masanari Matsuda

松田 将成さん
文学部3年生





02

Rika Monzawa
門澤 里香さん
総合政策学部4年生

広島をきっかけに平和を考え 当たり前のありがたさに気付く機会に

広島に原爆が投下された8月6日は、帰省して平和記念式典に出席し、夜はボランティア活動をするのが恒例だった。しかし、コロナ禍の今年は違った。「何もなくなっていいのかな」と中高時代からの友人と話し合い、「いつも通りの2時間を、誰かを想う2時間に」をテーマにオンラインイベントを主催。サークル仲間など全国から30人が集まった。「広島のことを知りたい、平和について一緒に考えたいという人が予想以上に多く、うれしかった」と話す。

当日は7時45分スタート。記念式典を中継して黙とうを捧げ、「原爆の子の像」のモデルである佐々木禎子さんの話を伝えて鶴を折った。さらに、それぞれにとっての平和の定義を話し合ったところ、「夢を持てる」「誰かと笑い合える」などが挙がった。「平和とは、戦争や核兵器をなくすといった大きな問題だけではありません。日常の当たり前が当たり前に存在することのありがたさ、日々の幸せが平和につながっているのだと気付けば、そのために自分には何ができるのかと考えるようになるのではないのでしょうか」

自身、大学での学びや海外でのポ

ランティア活動を通じて環境や貧困などの社会問題に興味を持ち、解決を目指すソーシャルビジネスも平和への手段の一つだと思いついたという。今回のイベントに合わせて立ち上げた団体「アムネ」では今後、オンラインイベントの定期開催はもちろん、SNSを通して社会問題の発信、社会の課題を解決するためのソーシャルビジネスの展開も活動の柱に据えている。来春には広島大学大学院人間社会科学研究科に進み、より専門性を磨いて社会問題に切り込む力を養う。



一緒にオンラインイベントを開催した、神戸大学4年生の水野聖良さんと



数学言語を用いて
社会現象のありようや
メカニズムを解明する

数

理社会学では、数学言語を用いて社会現象を説明する数理モデルをつくり、それを使って解析・分析することで社会現象のあり方やメカニズムを明らかにします。

研究テーマの一つが階層帰属意識です。自分がどの社会的階層に属しているかという意識について、日本や先進諸国では多くの人々がほぼ真ん中だと考えています。真ん中への偏りはなぜ生じるのかという問いに対して、人はこういうふうに関心者と比較して自分の意識を形成していくのではないかと仮定を幾つか打ち立て、そこから数学的な言語で数理モデルという仮想世界、箱庭を作ります。その中で人を動かす、結果的に現実と似ているか否か、似ていれば現実に起こっていることの背後にも同様のメカニズムが潜んでいるのではないかと探っていきます。

ですので、社会学では珍しく数式がどんどん展開されます。社会的なメカニズムを数式に落とし込むことで数理モデルという自立したものを作ります。言ってみれば、レゴブロックでお城を作るようなイメージです。一つ

一つのブロックが数学的なもので、それを組み立てて現実のある側面に似せたものを作っていく。面白い問いを見つけ、その背後に起こっていることを想像しながら、自由に組み立てたり壊したりする作業は純粋に楽しいですね。

単純な仕組みやルールによって人が動いた結果の集積が大きなたり亡くなったりする。数理モデルにより経過をシミュレートでき、実際に感染拡大予測で注目を集めました。



現在進行形の研究は、計量社会学の領域です。防災研究などでも注目されているヴァルネラビリティという概念を用いて、人生のイベントに起因する潜在的な

社会現象になるケースで、数理モデルは力を発揮します。新型コロナウイルス感染症もその一つです。人の自由な動きの中で感染者が非感染者に一定の確率で病気をうつし、ある確率で非感染者が発症する。その人は別の人に感染させ、一定期間を過ぎると病院に隔離されたり治つ

傷つきやすさについて、ある種の測定モデルを考え、社会調査のデータを流し込んで見えます。

具体的には、失業や配偶者の喪失という、ある意味、誰にも起こり得るイベントに注目して、どのような年齢層や社会階層、性別の人がそのようなイベントの影響を潜在的に大きく受け

やすいかをデータから見えてきます。例えば、男性の方が女性よりも配偶者を失うことで幸福感がものすごく下がる、つまり傷つきやすいというようなことを実際のデータから見つけていきます。身近な例で言うと厄年のような感じですが、そういう世俗に伝わる経験則的なものではなく、きちんとしたエビデンス(根拠)に基づいた分析をすることで、事前に注意を促したり、政策を立てたりできるのではないかと考えています。密かに「エビデンス・ベースド厄年」と表現したりしています。

ゼミは数理社会学をテーマにはしていませんが、数学を使う、使わないにかかわらず、個々の学生が自由な発想で社会の仕組みの背後を考えていきます。それ自体が面白いですし、何らかの知見が導かれる可能性も秘めています。データ分析はしっかりとやりますが、あとは基本的に自由。面白ければ何でもいいと思っています。ネガティブな意味で使われることが多い「車輪の再発明」であつてもいい。自分の頭で考え、いろいろな発想をひねり出してみるという経験を大学時代に積んでほしいと考えています。

※車輪の再発明…すでに確立された技術や解決方法があるにもかかわらず、一から同じようなものを発明してしまうこと。

社会学部 石田 淳 教授

Profile Atsushi Ishida

横浜市立大学国際文化学部卒業、関西学院大学大学院博士課程後期課程修了。博士(社会学)。大阪経済大学人間科学部准教授を経て2018年から現職。専門は数理社会学。

My favorite



台湾・花蓮

妻が台湾の東海岸にある花蓮出身で、家族で毎年訪れます。原住民のアミ族が住み、客家(ハッカ)という漢民族も移住。日本統治時代も含めて、いろいろな文化が複合した面白い街です。有名な「夜市」の食事もおいしいですよ。





秋学期開始 #おかえり関学生

今、人生について考えよう!

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は世界中に多大な影響を及ぼしています。従来の常識や価値観は大きく転換し、誰もが経験したことのないニューノーマルな社会が到来。コロナ禍でのさまざまな変化を振り返り、これからの働き方や生き方、そして「真に豊かな人生」について話し合いました。

対面から インターネットへ 一気に移行

玉田 昨今の新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況をごどのように感じていますか。

巳波 急速に時代が変わったという印象です。確たる対処法もいまだ不明にもかかわらず誰でも感染する可能性があるため、世界の全ての人が身近な

東京大学卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。ハーバード大学大学院修士課程を経て、東京大学大学院工学系研究科博士後期課程修了。博士(学術)。2005年から現職。専門はイノベーションのマネジメント、科学技術政策。



経営戦略研究科
玉田 俊平太 教授

京都大学文学部卒業、同大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士(文学)。2008年に関西学院大学神学部に着任。2017年から現職。専門は日本キリスト教思想、日本キリスト教史、内村鑑三、無教会主義キリスト教。



神学部
岩野 祐介 教授

東京大学理学部卒業、京都大学博士(情報学)。日本電信電話株式会社通信網総合研究所を経て、2002年に関西学院大学理工学部に着任。2012年から現職。専門は数理工学。



理工学部
巳波 弘佳 教授

恐怖として感じています。このような、正解のない不安な状況で生きていくためには、ネガティブ・ケイパビリティという能力が必要だと思っています。答えのない状況に対して耐える力と言われるものです。安易に答えに飛び付くことなく、じっくり考え、耐えて次のステージに行かなければなりません。

岩野 一番に思ったのは、私たちの価値観は私たちが決めているわけでもないのだな、ということですね。何より命が大事というような価値観も、社会や政策

との関係の中で成り立っているのですが、急にこのような状況になってバランスが取れていないとも感じます。例えば、電車など人がたくさん集まる場所は今も普通にありますが、もしも密を避けるのならば、全て休みにしなければいけません。大学が対面授業をしないのも命を守るためです。でも逆に、このままで学生たちは不利にならないのでしょうか。将来、就職の時などに「コロナの時の学生はあまり勉強を…」という目で見られると、それはそれで命や金銭に関わっ

てくるのではないかと懸念しており、非常に難しい問題だと感じています。

玉田 社会全体に大幅な変化を求められていて、これまでなら対面が当たり前だったことを何とかインターネットに移行で



バーチャル世界で コミュニケーションの 新たな形を

きないかとあらゆる努力がなされていきます。大学での授業やゼミ、学会、企業では顧客への訪問や会議などですね。この変化は不可避免ものだろうし、エネルギーの消費削減や時間の節約など効率向上の観点では良い面もあると受け止めています。感染症の流行は地球温暖化問題と絡めて10年、20年前から警告を鳴らされており、これからは感染症の周期的な発生と共生することが求められるのではないのでしょうか。

うか。

巳波 テレワークやeラーニングは、その必要性や重要性が言われながら、なかなか進んでいませんでした。それが数カ月で一気に進んだという点では、「コロナ騒動は時代を大きく変革するきっかけになりました。災い転じて福となすよう、技術の新たな発展とその社会への波及につなげていくことができればいいと思っています。ただ、現在よく使われているZoomというWebミーティングシステムにしても、もっと良いものが出てくればさらにシフトしていきます。良くも悪くも戦国時代になるといつ気がしています。

玉田 大学もキャンパスを閉鎖し、オンライン授業に切り替えるなど方向転換を余儀なくされました。どういう変化を感じましたか。

岩野 私が舎監をしている「静修寮」は、1年生一人に対して2年生が一人、「担当者」という形で付きますし、1年生のうち二人部屋でパートナーと共同生活します。これらの意味ある体験がコロナ禍でできなくなり、代わりの何かを考えるのは難しいですね。また、例えば西宮上ヶ原キャンパスの学部に入學して甲東園駅から急な坂道を歩き、途中でバスに追い抜かれながら「バスに乗ったらよかった」と思うようなマイクロな体験、留學に行った先で現地の人たちと一緒に礼拝に出たり、讃美歌を歌ったりする経験。そういうものが本当は重要なだろうと思います。

巳波 一般社会と同様、大学でもSNSを使った情報共有、情報交換という形が加速しました。一方で、岩野先生がおっしゃる通り、大多数のコミュニケーションが断ち切れ、大切なものを失っているのが現状でしょうか。留學など海外を経験する機会が失われているのも残念です。文字だけの知識ではなく、現地で五感を使って感じることで人格形成に大きな影響を及ぼしますから。

玉田 インターネットとは三重苦のメディアで、五感のうち、視覚と聴覚に関する部分は伝送可能ですが、嗅覚、味覚、触覚は伝えられないと思っています。だから、軌道に乗ったビジネスは進められても、初対面で契約を取ることには難しい。恋愛もネット上だけでは簡単には成立しませんが、その意味で失われているものはかなり大きく、これが1年、2年と続くと、社会に大きな、かつ不可逆的な影響を与えます。「コロナジェネレーション」、「あの時期からコロナのせいであろう」な「みたいなことが起きるのではないかと」という気はしています。

巳波 私の研究室ではZoomを活用していて、一つの策として、私がホストとなり朝7時ごろからずっとオン状態にしています。そこへ学生がふらっと入ってきて、

数人で雑談をしたり、用事がある時は出て行ったり。「ずっと一人でいるのはしんどい」という学生たちの声で始めてみたら、リアルな研究室と同じような空間をバーチャル世界でつくることができました。完成形ではないけれども、新たなコミュニケーションの形の一つとして模索していきたいと考えています。



岩野 明るい変化としては、これまで引きこもり気味で心配していた学生が、課題を出してきたということが挙げられます。いろいろな理由から通學が苦手な人にとっては、リモートでのやり取りはかえって気が楽なのかもしれないですね。

玉田 私は授業とゼミ、短期のオープンセミナーの三つをやって



みて、飽きさせない工夫さえすれば注意を保って面白くできると確信しました。手を挙げて質問する勇気はなくても、チャットには書ける人は多いので、多くの人が引つ掛かっている点が明らかにになりました。兵庫県外に住む社会人学生は通学の時間が省けますし、セミナーには距離の壁を越えて全国から受講生が集まってくれました。しかも、録画しておいてアップすれば、復習に活用できます。インターネットは使いようでより大きな力を発揮します。

「就社の時代は終わり 変化に適応する力で 世界に目を向ける」

玉田 新型コロナウイルス感染症のダメージは経済界でも大きく、航空会社等では来年度の採用停止を決めた企業があります。「新しい生活様式」の中

で、働き方自体にも大きな変化が見られます。一方で、巴波先生が専門とされるAI（人工知能）の発展により、かなりの仕事が置き換わると言われています。過去のデータを参照しながら、スポーツの実況中継をしたり、企業の業績発表に関する記事を書いたり、アナウンサーや記者の仕事もAIはできると聞きました。こういう時代に、学生たちはどのように職業を選択していけばいいのか。喫緊の課題と言えますね。

巴波 学生から「どの企業に就職するのがいいですか」「内定を幾つかもらいましたが、どこを選ばいいですか」とよく聞かれます。最終的に決めるのは本人ですが、以前ならば、そのためのさまざまな情報を提供していました。今は、大手企業であってもそもそも存続するかどうかさえ確信を持ってない状況です。教員だから、先達だから、年上だから、的確なアドバイスができる時代ではなくなりました。

岩野 宗教的な立場からは、社会のためにならなければいけないと言った方がいいと思えますが、今の時代は難しいですね。先日、コンビニエンスストアに

行ったら「エッセンシャルワーカーとして共に働きませんか」という掲示がしてありました。確かにこの状況下では、私よりもよほど世の中の役に立っている仕事だなと納得させられました。

玉田 アメリカの経済誌が年一回、「フォーチュン500」という世界企業番付を発表しています。昔は20年、30年と継続してランクインする企業がありました。が、近年、その平均年数がどんどん短くなっています。それだけ変化が激しくなっているということです。私が就職する頃、日本ではエレクトロニクス産業が最も華やかで、世界の半導体企業トップ10の6社が日本企業でした。けれども今は元気がありません。これからの時代はどの会社に入って永久に勤めるかという「就社」を考えたも仕方がない。ダイナミックな変化の波をサーファーのように乗りこなす能力、変化に適応する能力を持った者が生き残る時代になったのかなと思います。

巴波 自分が身に付けるべきスキルは何かを考え、実際に頑張って学んで身に付ける。そして、会社に入るのではなく、会社と対等な立場で、そのスキル

を会社に売っているくらいの気概で生きていかなければいけません。会社に育ててもらって、ぬくぬくと最後までいようなどという精神では、この先、生き残っていかないでしょう。

玉田 今回のコロナ騒動以前に出版された「財政破綻後」と



いう本には、2035年までに日本の国家財政が破綻する確率は99.9%ないし100%だとすでに書かれています。そういうことも踏まえた上で、就職先に関しては国内ばかりに目を向けて、グローバルなエンプロイアビリティを高めていくことが大事です。日本がどんどん縮小均衡に陥って就職難が発生しても、

※1…エッセンシャルワーカー
Essential(不可欠な)とWorker(労働者)を組み合わせた言葉。人間が社会生活を送る上で必要不可欠な仕事に従事している人。

※2…「財政破綻後」
小林慶一郎編著(2018年、日本経済新聞出版社)

※3…エンプロイアビリティ
Employ(雇用する)とAbility(能力)を組み合わせた言葉。働く人が企業などの組織に雇われるための能力やその可能性。



くなるわけですが、逆に自分が決めたことだから頑張れるところまで頑張ろうという意欲にもなるはず。

岩野 私は大学を出てから5年くらい、小さな塾で働きました。学校に通えていない子、親の帰りが遅い子などに教えるのが仕事で、やりがいを感じていました。でも、ハードだし、給料は安くかとも思っただけはありますが、本当にやりがいだけはありました。

世界には関西学院大学出身者を求めている企業・機関があり、チャンスはたくさんあります。今後は、一会社、一国家に依存して生きるのはリスクが高いので、企業や国家に左右されない力を身に付けてほしいと願っています。

**やりがい、収入
職業選択の新たな軸は
持続可能性**

玉田 職を選ぶ場合には、自分がやりたいかやりたくないか、収入が高いか低いか、親や友人など他人が喜ぶか喜ばないかなど、いろいろな判断基準があります。私が一番お薦めできないのは、人の目や人の意見に影響されて意思決定をすることです。就職の決断は自分の意思としてすること。そうすると逃げ場がな

びがあってもいいと思います。

巳波 持続可能性は大事です。学生にも、徹夜の一夜漬けはまったく意味がないからやめなさいと戒めています。試験は乗り切れても、自分の知識としては身に付かないし、体を壊すこともありますので。持続可能で最大のパフォーマンスが出せる学び方・働き方が重要です。大学生ならば少々無理をして失敗してもリカバリーできるので、今こそいろいろ試してみ、自分の学び方・働き方のスタイルを見いだしてほしいと言っています。

玉田 先ほど少しAーの話をしました。Aーに使われるよりも使う側になり、自身の能力の倍力装置(レバレッジ)として使いこなせれば、おそらく収入もやりがいも伴ってくるはずですよ。

巳波 関西学院大学が提供する「Aー活用人材育成プログラム」の狙いが、まさしくこれです。これまで、Aーをツールとして使いこなせる人材の育成という視点が抜け落ちていました。そこに着目し、Aーを道具として活用し自らの仕事をパワーアップする、そういう視点からAーを学び使いこなすことを目的とし

ています。新たな道具を使いこなすというスキルが、今後は必要になってくると考えています。

**世界が明日減じようとも
新たな智慧を
生み育てていく**

玉田 私も学生の頃は、会社



に入ると、仕事をすれば給料をもらえるのだと捉えていました。しかし、会社の先には顧客がいます。顧客が価値を感じれば会社にお金を払ってくれ、それが自分のところにも回ってくるということ。要するに、他人の役に立った自分が自分に入ってくるのです。働くとは「傍(はた)を「楽」にすること」と言われてい

※4…サーバントリーダーシップ
 米国のロバート・K・グリーンリーフが提唱。「リーダーである人は、まず相手に奉仕し、その後導くものである」というリーダーシップの実践哲学。

ます。全ての職業は他人のためにあると言っても過言ではないですが、それはスクールモットー「Mastery for Service」にも大いに関係していると思います。

岩野 「Mastery for Service」は新約聖書の「頭(Master)になりたい者は、皆の僕(Servant)になりなさい」(マタイ20:27)というイエスのメッセージと結び付いています。例えではなく本当にServantになりなさいと言っているのですから、よりよいMasterになるためにserveしなさいという意味とは少し違います。インタンの的にServantを体験したら良いMasterになれる、ではありません。この仕事に関して、自分は何をserveできるかを一生懸命に考えなさい、ということだと思います。顧客のためにもそうですし、特に今は環境のため何ができるかも重要です。それによって、お互い幸せになれるといいよね、ということなのだろうと解釈しています。

玉田 経営学の世界でもサーバントリーダーシップ、「リーダーはサーバントたれ」という意味の言葉があります。通奏低音はつながっているのかなという感じがしますね。

巳波 「たとえ明日、世界が減りようとも、私は今日、リンゴの木を植える」というドイツの古い言葉があります。絶望的な状況でもなお、智慧の象徴であるリンゴの木を植えるという行為の尊さ、力強さにとってもシンパシーを感じます。コロナ禍の今、誰もが不安に思っています。世界が減るかもしれない恐怖感さえあるかもしれませんが、そのような状況でも、教育者として、学生の智慧を育てていかなければと思うと同時に、研究者としても知を発展させていかなければならないと心しています。これは私の信念であり、学生一人ひとりにも智慧を育てることに価値を見いだしてほしい。それを伝え、育てていく姿勢が「Mastery for Service」ともつながるのではないかと感じています。

他者への貢献や心の持ちようで幸せを感じられる

玉田 関西学院は全ての卒業生が「真に豊かな人生」を送ることを目標として掲げています。それに関連して、人間は所得が一定以上、年収600万

700万円を超えると、結構幸せな気持ちになり、それ以上は増えても幸せ度はあまり増えないといわれています。私が個人的に思うのは、家族がいることの幸せです。今のよう以外の人と関わりにくい状況では、何をすることも家族が基本になります。収入的には腹八分目、あとは家族がいる幸せをより意識します。

巳波 「足る」を知ること、とでしょうか。足りないこと、不満を持ち続けるのではなく、これを得られた、だから喜びたいという精神のありようが心の安定につながります。これが欲しい、あれが足りないと思っても、すぐに手に入るかどうかは分からない時代です。心、心の持ちようを変えないと苦しくなりますね。

玉田 最近、所有せずに利用するサービスがどんどん増えていきます。無理に物を持たなくても、必要な時に必要な物を借りて使えば、実質的には結構豊かな暮らしがリーズナブルに送れます。私がかれまでに一番幸せを感じたのは、ある若者を財政的に支援した時です。相手の方にくすぐ感謝されたこともあって、「ああ、自分は人の役に立っているな」と、とても幸せな気持ちになりました。

岩野 私は、無教会主義キリスト教を説いた内村鑑三の研究をしてきました。内村は、「幸福、幸福と言っているから幸福にならない、まず目の前に集中すればいいのだ」と言っています。自己責任的に自己の幸福



を獲得しようすると、いつまでも足りないと感じるところがある。そうではないんだと書いています。自分、自分というその自分が悪いのであり、それが全ての苦悶の原因であって、自分が良くなるうと思っている限りは幸福になどなれない。その通りだと思ふ半面、今が少しでもいい人に目の前に集中し

ていれば大丈夫と言っても伝わらないのでは、とも思います。

巳波 苦しみの渦中にいる人は、真に豊かな人生について語られたところで、ということですね。学生たちはまだ恵まれていて、学ぶ機会がたっぷりあります。明日の生活に困るという立場ではない今のうちに真に豊かな人生を感じる心の持ちようを身に付けておけば、たとえ将来その渦中にあつたとしても右往左往することなく、人間万事塞翁が馬、また戻っていくものだと捉えられるかもしれません。学生である今、このことに気付いてもらうことが大事ですね。

時間がある今 人生の柱となる 信念や言葉を探そう

玉田 岩野先生、学生たちに今伝えたいことはありますか。

岩野 神学部では、新入生には必ずカルト対策の話をします。どうすれば破壊的カルトにはまらないか。カルトは「むなしさ」に付け込みます。学問やスポーツ、サークル活動を一緒にする仲間がいて、本当に楽しいと思える日々を送っている限り、むなししい気持ちなどにはな

りません。ご飯を食べたらおいしいし、お風呂に入ったら気持ちがいいし、犬や猫を見たらかわいいなと思える、そういう日常をしっかりと楽しんでいたら、それを続けていくことにむなしさは感じないはずですよ。たとえ、こんなことして何になるのだろうと少しだけ考えたとしても、ちゃんと普通の日常生活に戻っていきます。けれども、新型コロナウイルス感染症により自粛期間が続く現在の状況は危険です。カルトに付け入れられる隙が生じるかもしれません。Zoomでの会議やリモート授業で大変ではあるけれど、関西学院大学に来て楽しいな、この勉強をしてよかったなと思ってもらえるにはどうすればいいのか、私自身、春学期はかなり悩みました。学生たちもそうだったのではないかと思います。

巳波 教える側も初めてのことでですから。教育をこういう形でやるのは世界でもまったく初めてのことです。大実験が始まったという認識です。

玉田 私が言いたいのは、一つには、なるべく引きこもらず家族や友達と定期的に話してほしいということですよ。行動も制

限され時間だけはありますから、例えば週に1回、曜日を決めて必ず実家に連絡をするよう習慣付けをしたらいいのではないのでしょうか。もう一つは、これからの人生の柱になるような思想や信念、信仰といったものを見つけるチャンスだということ。聖書を読み返すのも、論語を学ぶのもいいかもしれません。そういう東西の古典に触れ、自分の言葉にできるような、信念になるようなものを見つける。私が先に話した若者を助けた時、頭に浮かんだのは「義を見てせざるは勇無きなり」という孔子の言葉でした。今、こうしなければ自分が後悔すると思ってしまう。苦難を強いられるこの期間に、そういう言葉を探し出すことができれば素晴らしいと思います。



(撮影時以外はマスク着用の上、互いの距離を十分に確保して行いました)



文化総部 混声合唱団エゴラド

離れていても心を合わせ 感謝の思いを歌声に

今年で創部66年となる伝統ある部活動で、昨年は創立65周年の定期演奏会を開催。しかし、本年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により演奏会の中止や対面練習が制限されるなど大きな影響を受けており、例年とは異なる練習方法を取りつつ、前向きに合唱に取り組んでいます。

通常であれば年に2回の定期演奏会に加え、2、3回の依頼演奏を開催します。それぞれの本番に向け週3回、パトリダーを中心にパートごとの音取りや正指揮者と副指揮者を中心に全体練習に励みます。練習中は同じミスを繰り返さないように意識し、受けた指導の復習を大切にしています。部員全員とも仲が良く、雰囲気の良い毎回の練習の楽しさにもつながっています。

本年度は予定されていた演奏会だけでなく、地方の小学校を訪問して演奏

創部 / 1954年

部員 / 50人

部長 / 小菅 宏明

練習場所 / 西宮上ヶ原キャンパス

旧学生会館音楽練習場11

KG CLUB by KGB

昼休みの放送や番組制作などを行っている関西学院大学唯一の放送団体・KGB総務放送局が、多彩な課外活動を紹介します！

KGBの活動は
Twitter→<https://twitter.com/KGBbroadcast>



※写真は、2019年11月に実施した定期演奏会のものです。

Pick up

「IN TERRA PAX～地に平和を～」の楽譜

3年生全員が集大成となる定期演奏会の最後に選んだ曲「IN TERRA PAX～地に平和を～」。戦争の残酷さや悲しみを訴える4曲、最大限のパワーで平和を祈った1曲の計5曲で構成。新型コロナウイルス感染症により危機を迎えている文化・芸術活動は平和だからこそ繁栄するという考えの下、友と集まり歌える平和に感謝して歌います。



混声合唱団エッセイの
Youtubeチャンネルはこちら↓



する「歌声旅行」や夏合宿などのイベントも中止に。対面練習の制限は、離れた場所でも練習できるようにすることで補っています。部員は自宅で曲の音源を聴きながら歌った声を録音し、パートリーダーに提出してフィードバックを受けます。また、リモート合唱をSNSで発信し、新入生にエゴロドを知ってもらう企画にも力を入れています。

現在は、今代最後の定期演奏会に向けて練習を重ねています。部長の小菅宏明さん(文学部3年生)は、「演奏会は歌い手がいて、指揮者がいて、お客さんがいて、先生がいて成り立つもの。演奏会を開けたなら、周りへの感謝を忘れずに友と歌える喜びをかみしめながら歌いたい」と意気込みます。12月27日(日)にキセラホール(川西市)で予定されている本番で、歌声を通して感謝の思いを届けるため、離れた場所であっても部員全員で心を合わせて歌を紡ぎます。



— 関西学院で学ぶ皆さんへ —

新型コロナウイルス感染症の感染拡大は世界中に大きな影響を与えました。関西学院もキャンパスの閉鎖やオンライン授業の実施など、これまでに経験したことのない困難と向き合わなければなりません。その中でも学びを止めず歩み続ける皆さんへ、そして変わらずご協力くださる保証人の皆さまへ、理事長や院長をはじめ、各学校長や園長から届いたメッセージを紹介します。



理事長
平松 一夫

皆さま、平素は関西学院の教育にご理解・ご協力を賜り、ありがとうございます。現在、関西学院が直面する最大の課題は新型コロナウイルス感染症拡大への対応です。これに対する関西学院の基本的な考え方は、学生・生徒・児童・園児が安心して関西学院での学びを継続できること、そして保証人の皆さまがお子さまを安心して関西学院に託すことができることでした。そのため、キャンパスを閉鎖し感染の回避に尽力する一方で、オンライン授業の活用により学びに遅れを生じないようにしたり、関西学院独自の奨学金制度を新設・拡充したりと、手厚い対応に努めてきました。こうした施策は同窓の皆さまからも評価をいただき、さまざまなご支援を賜るに至っています。関西学院はポストコロナを見据えつつ、今後ともできる限りの施策を講じてまいります。



院長
舟木 讓

コロナ禍により、これまで経験したことのない日常を皆さんが送る中、「これもできない」「あれもできない」と「できないこと」に意識が行きがちかと思えます。ただ、友だちと直接会って話をするのができなかった時、さまざまな工夫と想像力をもって、学んだり、話をしたりすることで、これまで当たり前と思っていた、人との交わりや語りの中に、優しさや思いやりなどを再発見する時与えられたのではないのでしょうか。私たちに量的には平等に与えられている一日ですが、それを質の高い、かけがえのない時と感じて過ごせるかは一人ひとりに委ねられています。「できないこと」の多さに気分が沈みそうになりますが、今だからこそ「できること」「感じられること」を日々発見し、今の状況を経験した人にしかできない豊かな成長へつなげていただきたいと思います。皆さんの日々の歩みが神様に護られ、良き出会いと成長の時が続きますよう心より祈っております。



学長
村田 治

新型コロナウイルス感染症の拡大によって、春学期の授業のほとんどがオンラインで行われました。秋学期の授業はオンライン授業と対面授業の併用で行っています。人によっては、受講科目のほとんどがオンライン授業になっている場合もあるかもしれませんが、全学の開講科目の約40%が対面授業で行われています。図書館や生協食堂なども利用が可能になっています。また、キャンパスも全面的に開放し、部活動やサークル等の活動や勧誘も感染予防策を講じることを前提に認めています。しかしながら、新型コロナウイルス感染症はまだまだ油断できない状況にあります。皆さん自身やご家族の健康と安全のためにも、コンパや夜の会食を自粛するのは当然のこと、三密を避ける、マスクの着用、手指の頻繁な消毒を行うことを心からお願いしたいと思います。このコロナ禍を共に乗り越え、皆さんがさらに充実したキャンパスライフをこの関西学院大学で送られることを願っています。



関西学院千里国際中等部・高等部校長
井藤 真由美

全てを遠隔授業(オンライン)で乗り切った春学期。新しい生活様式で学ぶ秋学期。学びのスタイルは大きく変動したけれど、私たちの姿勢は変わりません。Informed:多方面からの情報を吸収し、Caring:立場の違う人への理解と労りを忘れずに、Creative:柔軟に情勢を受け入れ、新しいものを生み出すエネルギーに溢れて学びを継続する生徒の皆さんを誇りに思います。行くぞ、我ら世界市民!



関西学院幼稚園園長
赤木 敏之

保育の願いは、「できない」「仕方がない」ということではなく、「どうすればできるか」です。このような状況下にあっても、子どもたちは、今を受け入れ、今を生きており、たくましさや適応力が育っていると感じます。感染予防で制限された枠の中で、注意をはらいながら、子どもたちと穏やかに、心満たされる時間を創り出し、共に喜び合う毎日を過ごしていきたいです。神様に守られていることに感謝し、豊かな心、生きる力が育つことを願い、子どもたちと共に歩みます。



関西学院大阪インターナショナルスクール校長
ジャクソン・マイルズ

Continuing to learn during this pandemic has been a challenge for all OIS students, but every day I have been impressed by the strength of their unstoppable 'will to learn'. It is inspiring how well our students have adapted to the changes and continued to try their best each day. They have also learned to be resilient and to cooperate with the whole community to ensure our safety. And finally, I hope that this corona situation has also taught them about some of the important things in life, such as how valuable schools and education are and how lucky we are to have the opportunities we have. In the past, perhaps we used to take such things too much for granted?



関西学院初等部校長
田近 敏之

これまで近い将来のこととして語られてきた予測困難で正解のない社会を、今私たちは実体験する毎日が続いています。初等部の児童はそのような状況をしっかりと理解し、様々な制約の中で本当に頑張って学校生活を送ってくれています。このような状況で大切になるのはやはり人と人のかかわり合いであることを子どもたちが教えてくれました。出口は見えませんが、みんなの繋がりをより強いものにして、この災いを乗り越えられるよう願っています。



聖和短期大学学長
千葉 武夫

春学期は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、急遽オンライン授業となりました。美しいキャンパスで友人と学ぶ教育環境を提供できず、皆さんの気持ちを思うと胸が痛みます。このような状況でも、目的を失わず前を向き「授業」や急遽新設した「保育体験実習」に真摯に取り組んでくださった姿を見て、本学の学生の質の高さと力を感じました。秋学期は、共に過ごせる喜びを感じながら、夢の実現に向かって一緒に歩みましょう。



関西学院中学部長
藤原 康洋

知らずに人にうつすかもしれないから注意して、との呼びかけに誠実に応えながら学びに取り組む皆さんの姿を見て、NOBLE STUBBORNNESSの精神ここにあり、との思いを強くしています。今は、自分の行いが周りの人に直接の影響を与えることを実感する日々。いざれ新しい日常が定着する時、私達はさまざまな意味で大きく影響しあう存在であることを忘れずにいたいですね。オンライン化が進む社会において、祈りあい励ましあい高めあう仲間として。



関西学院高等部長
枝川 豊

誰も経験したことのないこのコロナ禍で、世界中の人々が影響を受けている。君たちが目にしたこと、感じたこと、気づいたこと、考えたことをしっかりと記憶に留めよう。その記憶を糧に一歩ずつ進んでいこう。様々なことが今私たちに関わっている。その問いに向き合い、未来のために何ができるか考え、「他者を思いやる」ことを忘れず、生かされている命に、そして日常が他者に支えられていることへの感謝を忘れずに歩み続けよう。

専門職大学院経営戦略研究科が 寝屋川市と連携協定を締結

専門職大学院経営戦略研究科は7月30日(木)、大阪府寝屋川市と人材育成、学術などの分野で相互の人的・知的資源の交流・活用を図ることを目的に、連携協定を締結しました。キャリアパスと管理職に必要な能力を明確に示し、管理職に必要な能力を身に付ける昇任資格取得のための講座(ねやがわ版管理職養成課程)を提供します。



初等部6年生が宝塚市の魅力を発信 同市観光企画課とコラボ

関西学院初等部の6年生は「総合的な学習の時間」で、宝塚市観光企画課と協力して同市の魅力を発信していきます。9月16日(水)には同市観光企画課の方から、観光に注力する価値や情報発信の難しさなどについて話を聞きました。児童たちは今後、市のSNSなどを使いながら活動します。



高校生が研究室訪問し最先端の実験を体験 理工学部で「ひらめき☆ときめきサイエンス」

理工学部は9月5日(土)、科学の面白さを中学生や高校生に感じてもらうプログラム「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI」を、神戸三田キャンパスで開催しました。

「科研費(KAKENHI)」により行われている最先端の研究成果をじかに見て、聞いて、触れてもらおうという独立行政法人日本学術振興会の社会還元・普及事業の一つ。参加した16人の高校生は三つの研究室で、アリのフェロモンコミュニケーションに関する実験や有機系材料を用いた二次電池の制作などを体験。終了後には「未来博士」号が贈られました。

また、26日(土)には中学生対象に同イベントを実施しました。



関学カプセル...④7

エンブレム



西宮上ヶ原キャンパス時計台正面に掲げられているエンブレム(紋章)は、関西学院が原田の森から上ヶ原に移転した1929年、C.J.L.ベーツ第4代院長・初代学長によって制定され、キャンパスの建築当初より設置されました。写真は1929年当時の時計台(図書館)とエンブレム。

丹羽登・教育学部教授の共同研究が 「第14回キッズデザイン賞」を受賞

丹羽登・教育学部教授が富士通株式会社などと共同で進めている「5GやVR・水中ドローン等の先端技術を活用した遠隔教育プロジェクト」が、「第14回キッズデザイン賞」を受賞しました。子どもの安全・安心と健やかな成長発達に役立つ優れた製品・空間・サービス・研究活動などを顕彰するもので、主催の特定非営利活動法人キッズデザイン協議会が8月21日(金)に発表しました。



生殖補助医療や再生医療発展の貢献に期待 関由行・理工学部准教授らのグループ

理工学部の山本真容子さん(元大学院生)と関由行准教授、および熊本大学発生医学研究所の中村輝教授らは、転写因子PRDM14が標的遺伝子を識別し、適切な複合体を割り振ることで、「プライム型」から「ナイーブ型」へ多能性幹細胞を変換することを発見しました。この研究成果は、発生過程における多能性細胞の維持や始原生殖細胞における初期化機構の一端を明らかにするものです。今後、ES細胞から卵・精子への誘導法開発や、ヒト多能性幹細胞のナイーブ化につながる可能性があり、生殖補助医療や再生医療の発展に貢献することが期待できます。

※1 体を構成する全ての細胞へ分化する能力を持つ。受精卵が分化した初期胚に存在する多能性細胞から樹立した多能性幹細胞をES細胞(胚性幹細胞)と呼ぶ。一方で、一度分化した細胞に特定の転写因子を人工的に発現させ、人工的に作製された多能性幹細胞はiPS細胞(人工多能性幹細胞)と呼ばれる。

※2 胎生期に一過的に出現し、卵・精子への分化能を持つ。



西宮市中学校総合体育大会で優勝 中学部サッカー部

関西学院中学部サッカー部が西宮市中学校総合体育大会(交流大会)に出場。9月19日(土)と20日(日)に開かれた予選リーグでは、3戦全てで勝利し1位で通過すると、翌日からの決勝リーグでも初戦を4-1で突破。その後の準決勝と決勝もともに1-0で勝利し、見事県大会への出場を決めました。



松本雄一・商学部教授が 日本経営学会賞を受賞

松本雄一・商学部教授の著書「実践共同体の学習」(白桃書房、2019年)が、2019年度日本経営学会賞(著書部門)研究奨励賞に選ばれ、オンラインで9月3日(木)に開かれた日本経営学会第94回大会で表彰されました。日本経営学会は1926年に創立された学会で、会員数は現在、約2,000人。国内における社会科学系の最大規模の学会の一つです。



KGグルメ

POCKET MAMA、Central Pocket(西宮上ヶ原キャンパス)

forêt(フォレ)(西宮聖和キャンパス)

生協の自家製お弁当

6月末から数量限定で販売が始まった生協の自家製お弁当です。日替わりで提供される「幕の内風」「甘えび唐揚」「鶏照焼」「中華」などバリエーションも豊かで、毎日ワクワクします。リーズナブルな価格設定にもかかわらず、味もボリュームも満足の品。ちなみに容器の内側の黒いフィルムをはがして、容器を生協に持参すると10円キャッシュバックです!400円(税込み)。



実就職率ランキングが全国1位に 卒業生5,000人以上の大学

関西学院大学を2019年度に卒業し、2020年春に企業等に就職した学生の実就職率が92.5%となり、卒業生5,000人以上の大学で第1位となりました。キャリアセンターでは、豊富な知識と経験を持つアドバイザーによる個人面談を基本に、AIを使って24時間365日質問に答えるチャットボットや、留学先や外出先でもスマートフォンやPCで個人面談ができるWebシステムを整えるなど、学生目線のサポートを充実させています。



※教育情報通信社「大学通信」による8月3日現在の調査結果

ストレス要因とアロマオイルの心理的効果の実証実験を実施 長田典子・理工学部教授の共同研究

関西学院大学感性価値創造インスティテュート(所長:長田典子・理工学部教授)は、在宅で生活に採り入れられるストレス緩和の方法としてアロマセラピーに着目。アロマ空間デザインや香りによるブランディングを手掛けるアットアロマ株式会社(以下、@aroma)と共同で、「新型コロナウイルス感染症流行下におけるストレス要因とアロマオイルの心理的効果の実証実験」を行い、その成果を9月10日(木)に「第22回日本感性学会大会」で発表しました。

実験は緊急事態宣言下の5月中旬、30~40代の男女30人に@aroma社製アロマオイル(4種)を自宅で使用してもらい、アンケートを実施。オイルを使用することによりストレス状態が緩和されるという実験結果が得られました。



川上ヒデル選手が日本インカレ男子十種競技で 関西勢初優勝し関西学生新記録を樹立

陸上の日本学生対校選手権(日本インカレ)の第2日は9月12日(土)、デンカビッグスワンスタジアム(新潟市)で開催され、陸上競技部の川上ヒデル選手(人間福祉学部3年生)が男子十種競技で日本一に輝きました。日本インカレの男子十種競技では、関西勢で初の優勝です。川上選手の得点は7653点。関西学生新記録を樹立し、日本学生歴代7位になります。



251人が旅立つ 春学期大学卒業式と大学院学位記授与式を挙行

2020年度春学期の大学卒業式と大学院学位記授与式が9月17日(木)、西宮上ヶ原キャンパスの中央講堂であり、大学からは206人、大学院からは修士学位記7人、専門職学位記34人、博士学位記4人、計251人を社会に送り出しました。出席は卒業生のみとし、座席間隔を空けて座る形で行われました。



「ひょうごe-県民」関学アプリの利用がスタート 県内イベントやキャンペーン情報も入手可能に

関西学院大学は、兵庫県との地域創生の包括連携協力協定に基づき、「ひょうごe-県民」アプリのプラットフォームを活用した学生向けアプリ(「ひょうごe-県民」関学アプリ)の共同開発を行い、9月14日(月)に利用を開始しました。

関学の学生や卒業生等がこのアプリを利用することで、「ひょうごe-県民」アプリで提供している「ゆかりの地域情報」等に加えて、大学のニュースや同窓会イベントの情報を入手することができます。また、「ひょうごe-県民」関学アプリの利用者は、「ひょうごe-県民」にも登録されることから、県内のイベントやお得なキャンペーンについての情報提供も受けられます。

右記QRコードからダウンロードが可能です。

iOS



Android



国連ユースボランティア派遣生がオンライン報告会 SDGs達成に向け開発途上国で活動

2019年9月から約5か月間、^{*}国連ユースボランティアとして、カザフスタン、バルバドス、アゼルバイジャン、ジンバブエなどに派遣され、国連が掲げるSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて活動してきた学生たちが集い、現地での学びや経験を語り合うオンライン帰国報告会が9月22日(火・祝)、Zoomで開催されました。

関西学院大学からは、UN Womenアルバニア事務所でも活動した中岡航太郎さん(2020年総合政策学部卒)が報告。高校生や大学生、社会人など180人が参加し、Q&Aセッションでは多くの質問が出ました。

※関西学院大学が国連ボランティア計画(UNV)との協定に基づき、学生を開発途上国にボランティアとして派遣するプログラム。



秋学期が始まりキャンパスに学生の姿 総合政策学部では振替入学式

関西学院大学では、秋学期の授業が9月23日(水)から始まりました。秋学期もオンライン、オンデマンドによる授業が主体となりますが、ゼミや語学など少人数の授業を中心に対面授業となります。これに合わせて、立ち入り禁止としていたキャンパスの皆さんへの制限が解除され、西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田の3キャンパスには学生たちの姿が戻ってきました。

神戸三田キャンパスの総合政策学部ではこの日、4月にできなかった入学式の代わりになる振替入学式が行われました。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、1年生約570人は1~3時限の3回に分かれて臨み、本格的な大学生活をスタートさせました。



読者アンケート & プレゼント

Present



Question
naire

アンケートの回答は
こちら



関学ジャーナルのアンケートにご協力ください。ご協力いただいた方の中から抽選で2名様に「トレーナー(三日月刺繍)」をプレゼントします。右記QRコードからアンケートにお答えください。締め切りは2020年12月14日(月)。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。※ご希望のサイズ(S、M、L、XL)とカラー(ブラック、ネイビー)をアンケートの自由記述欄に記入してください。

※お寄せいただいた個人情報は、プレゼントの発送以外では利用いたしません。

数字でみる関学

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により「おうち時間」が増え、YouTubeをはじめとする動画サイトの利用が増えたといわれています。関西学院大学の公式YouTubeチャンネルに掲載されている動画の2020年の視聴回数を調査しました。
大学公式YouTubeの視聴回数ランキング

※数字は9月15日現在、YouTubeのアナリティクスから抜粋したものです。

2020年関学公式YouTube視聴回数トップ3



1位

関西学院大学KSC
(神戸三田キャンパス)は5学部へ

2020年の再生回数→1,091,900回



2021年から5学部を擁するキャンパスに生まれ変わるKSCの30秒間のプロモーション動画。YouTube広告として展開し、広告上の再生回数は100万回超え!大学公式アカウントでは60秒バージョンをご覧いただけます。



2位

2分で見ると関西学院大学
/A two-minute Kwansai Gakuin University overview!

2020年の再生回数→39,253回



2019年の夏に公開した関西学院大学の紹介動画。日常を切り取った映像と共に歴史や学生数、海外協定校数といった基礎情報を2分にまとめています。



3位

関西学院大学キャンパスツアー

2020年の再生回数→13,593回



2020年の卒業生が立ち上げた「スタジオMOVE DOOR」が制作し、KGB総放送局の学生がナレーションを入れてくれた、「関学愛」があふれるキャンパスツアー動画。各キャンパスの特徴や施設などが詳しく分かります。



文字や写真だけでは伝わらない大学の雰囲気を紹介する動画が人気という結果になっています。公式YouTubeチャンネルでは、この他にも学部紹介動画や教員の研究動画、また下記のような教育の特色や学生の声をまとめた動画も展開しています。ぜひチャンネル登録をして関西学院大学の情報を動画でゲットしてください!

その他の注目動画と総再生回数

関西学院大学生に聞いてみた!
25の質問シリーズ

再生回数→4,537回



「関学を選んだ理由は?」「一人暮らしのメリットは?」など高校生が気になる25の質問に現役関学学生が答えました。西宮上ヶ原キャンパス/西宮聖和キャンパス編とKSC(神戸三田キャンパス)編の2本があります。



関西学院大学「10の特色」

再生回数→3,702回



AI教育やダブルチャレンジ制度、起業家育成や国際教育など、関西学院大学の教育における特色を10個紹介します。



関西学院大学×Snow Peak
～新たな学びを創造する“Camping Campus”～

再生回数→2,733回



6月に包括連携協定を結んだSnow PeakとKSC(神戸三田キャンパス)で展開していく“Camping Campus”のイメージ動画です。



留学日本一! 関学生が留学に行く理由

再生回数→1,340回



海外の大学などの協定などに基づく日本人学生派遣数で2018年度、日本一となった関西学院大学。なぜ関学生が留学に行くのか。その理由を分かりやすくまとめています。



聖書に聞く



院長 舟木 讓

すると主は、『わたしの恵みはあなたに十分である。力は弱さの中でこそ十分に発揮されるのだ』とされました。だからキリストの力がわたしの内に宿るように、むしろ大いに喜んで自分の弱さを誇りましょう。

コリントの信徒への手紙 二 12章9節

現

在も未だ収束の兆しが見えない新型コロナウイルス感染症によって、私たちの日常は大きな影響を受け、これまでの「常識」がさまざまなところで問われる日々が続いています。

そして、今回、改めて浮き彫りになったのは、私たちの「弱さ」ではないでしょうか。ウィルスという見えない存在から自らや他者を完全に守ることは不可能です。そういう意味で私たちには限界があり、「弱さ」を完全に克服することはできないと言えます。しかし、その「弱さ」を受け入れ、他の人々もまた自らと同じ「弱さ」を抱えている存在であることに気づくと、互いの「弱さ」を補い合い、一人では克服できない困難

を乗り越える「強さ」と他者を思う「優しさ」が産まれることも、私たちは日々経験しています。

また、これまで自覚していなかった、自らの「弱さ」を補ってくださっている人々の存在に気づき、人とのつながりの中で私たちの日常が継続できていることに感謝の思いを持った方も多いと思います。まだ、先の見えない不安な日々が続きます。「弱さ」に真摯に向き合い、他者の「弱さ」を受け入れ、共に「弱さ」を抱えた同志として、信頼に基づいた協力関係を築く中で、真の優しさと希望に満ち、安心して歩む世界が実現することを信じ、今後も一人で頑張りすぎない歩みを共に続けてまいりましょう。

編集後記

今号の「ひとひと」で紹介したように、コロナ禍において学生たちは「できない」ではなく「できる」を探して活動を続けています(むしろパワーアップしている!)。取材をしながらたくさんの刺激を受けました。逆境に思える状況すらも成長の糧にする姿勢。素晴らしい!見習います。(りよ)



関西学院大学 Instagram

関西学院大学のキャンパスや授業風景、学生の活動の様子など、さまざまな瞬間を写真や動画で紹介!友達がいるかも。



アカウント名 / kwanseigakuinuniversity



Kwansei Grand Challenge 2039

関西学院は、創立150周年を迎える2039年を見据え、関西学院のありたい姿・あるべき姿を示した「超長期ビジョン」と、それを実現するための前半10年間(2018-2027年)の方向性を示した「長期戦略」からなる将来構想「Kwansei Grand Challenge 2039」を2018年に策定しました。現在は、これに基づく「中期総合経営計画」で、さまざまな施策が進んでいます。詳細は下記Webサイトをご覧ください。

<https://kgc2039.jp/>

リズムをつくるイス。



ing
360° Gliding Chair

KOKUYO

kokuyo.jp/ing